

Udo-1 グランプリ 2023

特集

今年も開催 『Udo-1グランプリ』

事前に選び抜かれた5点の『白神山うど』の中から、最優秀賞に選ばれた『白神山うど』を予想して、白神の農産物豪華詰合せを当てよう！予想が的中された方の中から、抽選で5名様にプレゼント！

2/18(土)午前10時より、「みょうが館」でお買物されたお客様先着100名様投票！投票頂いた方には『白神山うど』を1本プレゼント！



特産「白神山うど」の収穫に励む藤田さん



JA野菜集荷所にも届く春の香り



昨年開催し大盛況であった「Udo-1グランプリ」の様子

は、冬から春を中心に収穫され、昭和50年代に当時の二ツ井町農協が、冬場の出稼ぎ解消、冬場の収入源として転作作物の一つに奨励したことをきっかけに栽培が盛んとなりました。

当組合では平成19年に商標登録された「白神山うど」の名称で、北海道や関東首都圏の市場を中心に出荷され、各市場からも高評価を得ており、秋田県内ではナンバー1の生産規模を誇ります。

当組合では、今年度の出荷量約88ト、6000万円の販売を計画しています。

「白神山うど」は春から畑で株を育て、秋にビニールハウス内へ移植。土をかぶせる「伏せ込み」を行い、電熱線などで床土を温めて株芽の生長を促して栽培します。

能代市二ツ井町で「白神山うど」を栽培する藤田清樹さん(50)は4棟のビニールハウスに昨年末「白神山うど」の株を順に伏せ込み、先に伏せ込みを終えたビニールハウス内では太く真つすぐ40cm程の長さになった「白神山うど」が収穫適期を迎えました。

藤田さんは「毎年「白神山うど」を待ち望む消費者のために、床土内の温度管理を徹底しながら、いち早く春の味覚を届けたい」と収穫作業に励みます。

当組合管内でも能代市二ツ井町を中心に収穫される「白神山うど」

Contents

- 02 | Contents
- 03 | **特集** 今年も開催『Udo-1グランプリ』
- 04 | あきた白神トピックス
- 08 | 営農情報
- 10 | 地域のきずな～女性部活動～
- 11 | 能代科学技術高校リポート～I Love 百姓～
- 12 | お年玉クイズ当選者発表・おたより・クロスワード
- 14 | エコで家計にやさしい 省エネ・節約術
- 16 | JAあきた白神からのお知らせ
- 20 | Mama's Sweets

大好評!! 広報しらかみハイライトムービー

毎月、広報しらかみ編集時にはたくさんの写真を撮影します。紙面の都合上、本誌では伝えきれなかった場面をご紹介します！右記QRコードを読み取りご視聴ください。目指すは動く広報誌!!



春の風味、食感を楽しんでください!

山うど部会(桜田和浩部会長)の部会員らが所有するビニールハウス内で「白神山うど」の収穫が2月に入りピークを迎えています。

山うど部会員らが所有するビニールハウス内では、シャキシャキとした食感と、ほろ苦さが特徴の「白神山うど」が「一足早い春の香り」を漂わせながら、生産者らによる収穫作業が最盛期を迎えています。

「白神山うど」は春から畑で株を育て、秋にビニールハウス内へ移植。土をかぶせる「伏せ込み」を行い、電熱線などで床土を温めて株芽の生長を促して栽培します。